

3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ

震災・大津波の被災地の今を三陸鉄道の車窓からしっかりと眺める

三陸鉄道 北リアス線

リアス式海岸の崖と谷で、隣の集落と隔てられ
集落それぞれが小宇宙ともいわれる三陸沿岸の町々

鉄道の復旧を待ち望んだ人たちの
気持ちがよくわかる「三鉄」



1. 三陸沿岸のIron Road Walk 2日目 午後の概要

三陸鉄道 宮古から普代への車窓・龍泉洞・普代村黒崎

6月8日 厚い雨雲に覆われ、霧雨が降ったり止んだりの一日。午前中に山田町船越の古代の製鉄遺跡の発掘現場を見学したあと、霧雨の中 代行バスで宮古駅に12:45到着。TVなどの報道で薄々感じていましたが、山田町の市街地や船越の浜など まだ草ぼうぼうの広大な荒れ地に被災地の今。今更ながら津波の強烈な破壊力と被災された人たちの辛苦に、声も出ず。しっかりと現状を眼に焼き付けました。また、山田町船越の数多くの古代製鉄遺跡に接し、知りたかった古代三陸の製鉄の様子も おぼろげながら頭に入った午前でした。

午後は今回の三陸沿岸のIron Road Walk の目的の一つ「三陸沿岸被災地の絆の中心」と聞く4月全線開通の「三陸鉄道」に乗る。20数年前 東北の古代からの資源帯 三陸海岸を訪ねて 岩泉・龍泉洞から三陸沿岸に出て、満員の三陸鉄道の列車に乗ってふっと思いたって降りた普代。「北緯40度地球村普代」の言葉が印象に。また、翌日久慈のたたら館を訪ねる中で、「Iron Road」の言葉とイメージができた懐かしい地。今日はどうなるか 風来坊。

宮古から「三陸鉄道」に乗車して、足の向くまま気の向くまま三陸沿岸の様子を車窓から眺めつつ、20数年前に訪れた岩泉・普代など北三陸沿岸のIron Roadを訪ねる。宿は前に泊まった普代黒崎の国民宿舎が取れているので気楽な風来坊ではあるが、この宮古から北に続く三陸沿岸もまた津波の大被災地であり、気持ちを引き締めて歩かねばと。



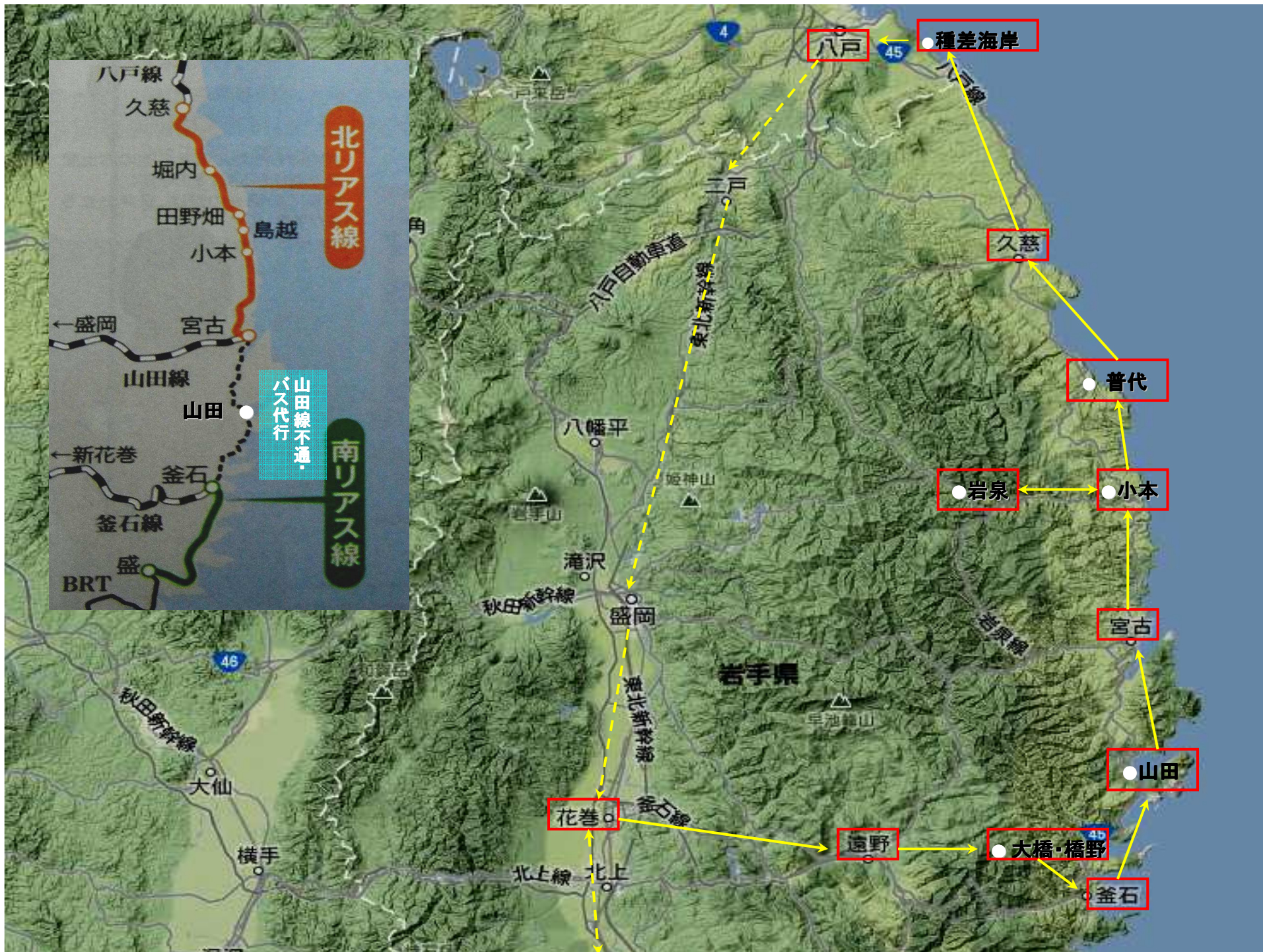
三陸沿岸のIron Road

三陸は古代 両手刀を手に戦った蝦夷の兵器庫・製鉄地帯
 古代からたたら製鉄跡が点々と続く三陸海岸
 山には岩鉄 川には餅鉄 浜には砂鉄 砂鉄浜が点々と
 久慈から八戸には大量の下ハ砂鉄層もある
 これは海底に堆積した砂鉄が隆起して出現したもの
 また、釜石の山中 大櫓・櫓野は洋式高炉が立ち並ぶ
 近代製鉄発祥の地
 そして、三陸の海は魚の宝庫
 三陸の森が海を育てるといいますが、
 その一因に豊富な鉄の流れ込みがあるという



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ

リアス式海岸を結ぶ三陸鉄道 北リアス線
リアス式海岸特有の崖から崖へトンネルと鉄橋で渡ってゆく



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

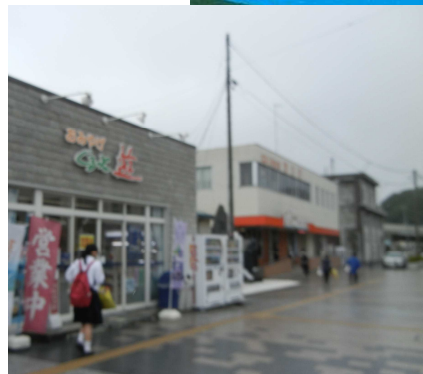
3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



12:45 土砂降りの雨の中 山田町からの山田線代行バスが宮古駅に到着
左手にJR宮古駅 右側に隣接して三陸鉄道北リアス線宮古駅が見える



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



宮古と久慈を結ぶ三陸鉄道北リアス線始発駅宮古駅正面 2014.6.8.



宮古と久慈を結ぶ三陸鉄道北リアス線始発駅宮古駅正面 2014.6.8.

北リアス線発車時刻 後編 問い合わせ 0194-52-3411

下 (方面)

時刻	種別	行先	のりば	時刻	種別	行先	のりば	記事
6:08	普通	久慈	三鉄線	16:32	普通	久慈	三鉄線	
7:03	普通	久慈	三鉄線	18:17	普通	久慈	三鉄線	
8:00	普通	久慈	三鉄線	19:34	普通	久慈	三鉄線	
9:18	普通	久慈	三鉄線	20:30	普通	久慈	三鉄線	
11:03	普通	久慈	三鉄線					
13:15	普通	久慈	三鉄線					
15:05	普通	久慈	三鉄線					

三陸鉄道宮古駅舎内13:15発久慈行に乗る人でごった返していましたが
この列車に乗り遅れると次は3:05発まで`列車はない`

今回の目的の一つ「三陸鉄道路 北リアス線」に乗り込んでの「車窓の旅」のスタートです。
13:15発久慈行の列車に乗り込む 今日はこちらから約1時間ほどの普代駅下車して
普代の浜に降りて 20数年前に泊まった譜代村黒崎の断崖の上に建つくろさき荘泊まりである。
土砂降りの雨 列車、ない車との接続は取れていないが、途中の小本駅で降りて
「竜泉洞」のあの「青」を見てから、普代に行くことにする。



岩手・岩泉

Iwaizumi town, Iwate pref.

神秘の世界を探検しよう。

龍泉洞

Ryusendo

One of the Three Great Forming Gorges of Japan
A country appointment site for a monument

国指定天然記念物・日本三大鍾乳洞

龍泉洞 2014.6.8.

そのどこまでも透明な青に惹かれていましたが、
20数年ぶりの再訪 かつての印象より ちょっとその青が薄くなったようだ





3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる 3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



列車に乗り込むとぱっと目に付く「あまちゃん」のポスター
どれだけ多くの人たちを元気づけたことでしょうか……



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ

リアス式海岸を結ぶ三陸鉄道 北リアス線
 リアス式海岸特有の崖から崖へトンネルと鉄橋で渡ってゆく



盛岡

北三陸沿岸 のIron Road 宮古-普代



岩泉

宮古駅 ●

田老駅 ●

接待駅 ●

小本駅 ●

島越駅 ●

田野畑駅 ●

普代駅 ●

Image Landsat
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

Google



両側を険しい山で閉ざされたそれぞれの集落。
どこに行くにも厳しい山越え もしくは船が泣ければ孤立する。
でも 眼前の海はこの沿岸が育てた豊かな海である。
唯一外部とつながる安定アクセス手段が三陸鉄道。
地図を眺め、実際に三陸沿岸に行って、初めて理解できる
地域の人たちの三陸鉄道の全線開通への思いが「三鉄」と呼ぶ言葉にあらわれている。
実際 コミュニティバスなど代行手段は用意されているが、それぞれ その集落地域内
にとどまり、中央・中核都市とつながるには、今も一日がかり。
いつでもどこでも すぐにアクセスできる我々が忘れていた地域アクセスの必要性。
三陸鉄道に続く三陸沿岸を貫く三陸復興道路の早期完成が切望される理由だろう。
そんなリアス式海岸に暮らす人たちの生活に触れた三陸鉄道でした。



田老駅の手前で やっぱりこの周辺も津波にやられたのか、人家がほとんど見えない



13:35 幾つもトンネルを抜け 三陸鉄道 北リアス線 田老駅に入る

宮古駅からすぐ北の山間に分け入り、山間のトンネルをぬけて 市の瀬駅・佐羽根駅を過ぎて、開けた高台の田老駅にはいる。沿岸山裾の高台にあり、沿岸部は霧に包まれ、よく見えないが、右手すぐ下が田老の街そして田老漁港である。

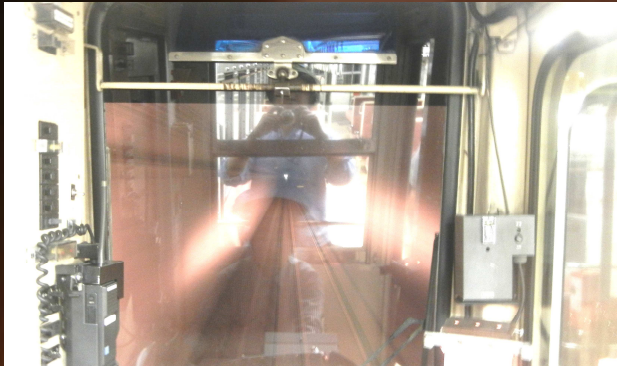


13:32 三陸鉄道 北リアス線 田老駅周辺 海岸側の車窓から【1】 2014.8.8

田老駅周辺 土砂降りで右手の沿岸部がぼんやり霞む中
人家はほとんど見えず、大きなショベルカーが動いているのが見える



13:32 三陸鉄道 北リアス線 田老駅周辺 海岸側の車窓から【2】 2014.8.8
かつて家並みがあった田老駅周辺



田老駅を過ぎて、またすぐに長いトンネルに入る



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



長いトンネルを抜けるとまっすぐな線路の向こうに撮待駅がみえている
ここでは土盛りの上を走る三陸鉄道の両側に家並みが見え、ほっとする。



撰待駅を出るとまたすぐに長いトンネルに入り、
13:45 トンネルの向こうには谷を渡る小本川鉄橋が待ち構え、小本駅へ入ってゆく



3. 三陸鉄道に乗って 20数年前訪れた龍泉洞 & 普代・黒崎を訪ねる

3.1. 三陸鉄道 宮古から龍泉洞の最寄り駅小本へ



小本川の鉄橋 2014.8.8

東側の北上山地から岩泉を通して 真っ直ぐ西の小本へ流れ下ってくる。
この小本川を遡れば、岩泉の龍泉洞である



小本川の鉄橋の向こうに駅がぼんやり見え、13:45 龍泉洞への入り口 小本駅に到着
ほんの少し三陸鉄道の車窓から三陸沿岸の集落を眺めただけであるが、その厳しさがひしひしと感じられる

宮古を出発して 40分ほど すこし定刻より遅れて 13:45 小本駅に到着
予想していた通り、この列車では龍泉洞の乗り継ぎがない。ちょうど駅の直ぐ東
側下にバスの駐車場があるので、そこへ行って様子を聞くことに。

